

ぎ、文化三年九月定火消に任じ、十四年九月寺社奉行となり、後御免、文政七年歿した。

フワタンバ 不破丹波 源六廣綱の嫡子。幼名長三郎。父の祿六千石を襲ぎ、慶長五年八月大聖寺城征伐の途上、小松城丹羽長重に對する戊として寺西秀勝と共に千代堡の守將となつた。後罪を獲て能州に蟄居し絶炊した。

フワチユウザエモン 不破忠左衛門 文祿四年前田利家に仕へて四百石を領し、足輕頭に進み、慶長五年大聖寺の役に戦死。子孫藩に世襲する。

フワデンベエ 不破傳兵衛 前田利家に仕へて三百石を領した。子孫六代直次郎幼少で祿三の一を受け、安永元年早世断絶した。

フワトモカゼ 不破友風 通稱富太郎。文政六年三月十四日生。十二年祖父治部右衛門友亮の遺知三の一を受け、天保元年原祿百五十石に復し、組外に列したが、後大小將組に轉じ、藩侯世嗣前田慶寧に録した。友風驥幹長大、最も槍術に達し、慶寧の槍を學ぶ時その對手を命ぜられるや、毫も假借して勝を讓るが如きことなかつたから、慶寧はその剛直を愛し、待つに殊遇を以てした。友風常に尊攘を以て主義とし、同志と共に慶寧を啓發する所あり、元治元年慶寧に従うて京師に在るや長藩と策應し、長藩が禁闕を犯して君側の奸を清めんが爲驚興の動座を請ふの必要ある際、之を加賀藩領近江海津に迎へ奉らんことを謀つた。既にして事行はず、八月十六日慶寧に先だつて金澤に還り、久徳傳兵衛・野口斧吉に會して事情を語つたが、直に捕へられて前田監物の邸に拘せられ、十月十八日切腹を命ぜられた。時に年四十二。二子廉太郎

次、直次郎亦連座して流に處せられたが、歸尚幼なるを以て暫く一類預となつた。明治二年十月藩友風の前罪を赦し、原祿三分の二を廉太郎に給し、廿四年九月又その殉難を追賞して靖國神社に合祀し、十二月特旨を以て正五位を贈られた。

フワナホカド 不破直廉 通稱梅次郎・彦三。初諱高俊。元文四年養父右京爲像の遺知四千五百石を襲ぎ、定火消・公事場奉行・兼寺社奉行を經、九年御家老兼若年寄に任じ、安永六年七月十八日歿した。

フワナホミツ 不破直光 一名勝光、又家光。通稱彦三。父河内守光治の天正八年十二月歿した後家を繼ぎ、越前府中三萬三千石を領し、十年三月越中に於いて小島六左衛門等の一揆が、神保越中守長住を富山城に圍んだ時、柴田勝家・前田利家等と共に往いて之を平らげた。十一年勝家の羽柴秀吉と戦はんが爲兵を近江に出した時に、四月二十日直光は佐久間盛政の先鋒となつて、中川清秀の大岩砦を屠つたが、翌日の敗戦に逃げ歸り、罪を得て封を除かれた。後利家爲に請うて赦され、家臣として二萬三千石(重頼覺書に據る。由緒には三萬五千石に作る。)を興へ、次いで末森・蓮沼・關東の役に従ひ、慶長三年八月歿した。子孫長く藩に仕へる。

フワハチロベエ 不破八郎兵衛 前田利常に仕へて二百石を領した。子孫藩に世襲する。

フワヒロツナ 不破廣綱 源六と稱した。美濃の人。父權内の後を襲ぎ、竹ノ鼻城を領し、織田信長に仕へ、天正十二年信雄・家康を援けて羽柴秀吉に抗したが、敵するを得ずして城を致し、十九年前田利家に仕へ、一萬

三千九十俵を賜はり、慶長元年更に八千石を加へ、人持組頭に任ぜられ、次いで侍従利政に録し、五年大聖寺の役に従ひ、發病して歿した。子孫藩に世襲する。

フワフカアキラ 不破澄明 治郎左衛門篤敬の子で、同姓宇平次の後を受け、百五十石を領した。初名勘太夫、後和平。諱は澄明、後に嚴。定番馬廻組に班し、表御納戸奉行・御近習番を經、明和八年御使番より漸く進んで番頭となり、祿は明和八年七十石、天明五年百石、六年百八十石を加へて五百石となり、寛政九年四月差扣を命ぜられたが、七月赦され、十二年致仕して介翁と稱し、料三百石を受けた。歿年不詳。澄明、號は南臺。藻思蔚然詩を以て一世に勝れ、藩主前田重政はその才を愛し、恩寵並びに至つた。澄明の學、初め古義を唱へ、父篤敬と大に趣舍を異にしたが、前田治脩の新井白蛾を聘して學舎を設くるに及び、選ばれて學校方御用となり、是より遂に朱氏に歸した。澄明會て旨を奉じて聲準六卷を作り、又貞觀政要を解して之を奉つた。子新助才學あつて詩を能くしたが、天明二年七月亡命した。

フワマサヨシ 不破方好 通稱平左衛門。彦三勝次の二子で、彦三爲貞の弟。祿加増共に五百石を領し、大小將裁許・御歩頭から漸く昇つて御馬廻頭に至り、享保九年致仕して秋夕と號し、十二年十一月五日八十五歳を以て歿。

フワミチトモ 不破道興 通稱丹清・丹下。久左衛門。市左衛門盈叙の弟。初め御居間坊主であつたが、寛保二年新知百石を受けて組外に列し、三年百五十石を増した。子孫相繼いで藩に仕へる。

フワミツイヘ 不破光家 通稱五郎左衛門。父壹岐守光勝は小早川秀秋の臣であつた。元和三年前田利常に召出され、三百石を領して御馬廻に班し、承應元年五月歿。子孫相繼いで藩に仕へる。

フワミツナガ 不破光永 通稱大學。不破齋宮の子。不破彦三直光の臣日根九兵衛の養子となり、關東陣に従うたが、九兵衛が八王子役に戦死したるを以て、歸陣の後前田利長は之を召出して不破氏に復し、二千俵を興へた。光永慶長五年の役に彦三光昌の陣代となつて軍に従ひ、又足輕頭として大坂兩役に出征した。

フワミツノブ 不破盈叙 通稱市左衛門。初め御居間坊主で丹彌といふた。後御歩・新番を經て、元文五年新知二百石を受け、組外に列し、寛保元年百石、三年百五十石を加へ、延享二年大小將に進み、明和五年十二月朔十五歳を以て歿。子孫相繼いで藩に仕へる。

フワミツハル 不破光治 通稱彦三又は河内守。元濃州の士で土岐氏に仕へ、元龜元年織田信長の幕下に屬した。天正三年信長から越前府中十萬石を前田利家・佐々成政・不破光治の三人に賜はり、北國の目付としたが、天正八年十二月十四日歿した。

フワミツマサ 不破光昌 通稱彦三。直光の嫡男。慶長三年父の歿後幼なるを以て祿五千石を給はり、明年五千石を加へ、五年大聖寺の役には家臣不破光永を陣代として従軍させ、大坂兩役に出陣した。寛永元年歿。

フワミツヤス 不破光保 通稱五郎兵衛。安永八年養父新兵衛光貞の遺知百八十石を襲

いで藩に仕へる。

フワミツイヘ 不破光家 通稱五郎左衛門。父壹岐守光勝は小早川秀秋の臣であつた。元和三年前田利常に召出され、三百石を領して御馬廻に班し、承應元年五月歿。子孫相繼いで藩に仕へる。

フワミツナガ 不破光永 通稱大學。不破齋宮の子。不破彦三直光の臣日根九兵衛の養子となり、關東陣に従うたが、九兵衛が八王子役に戦死したるを以て、歸陣の後前田利長は之を召出して不破氏に復し、二千俵を興へた。光永慶長五年の役に彦三光昌の陣代となつて軍に従ひ、又足輕頭として大坂兩役に出征した。

フワミツノブ 不破盈叙 通稱市左衛門。初め御居間坊主で丹彌といふた。後御歩・新番を經て、元文五年新知二百石を受け、組外に列し、寛保元年百石、三年百五十石を加へ、延享二年大小將に進み、明和五年十二月朔十五歳を以て歿。子孫相繼いで藩に仕へる。

フワミツハル 不破光治 通稱彦三又は河内守。元濃州の士で土岐氏に仕へ、元龜元年織田信長の幕下に屬した。天正三年信長から越前府中十萬石を前田利家・佐々成政・不破光治の三人に賜はり、北國の目付としたが、天正八年十二月十四日歿した。

フワミツマサ 不破光昌 通稱彦三。直光の嫡男。慶長三年父の歿後幼なるを以て祿五千石を給はり、明年五千石を加へ、五年大聖寺の役には家臣不破光永を陣代として従軍させ、大坂兩役に出陣した。寛永元年歿。

フワミツヤス 不破光保 通稱五郎兵衛。安永八年養父新兵衛光貞の遺知百八十石を襲